

# 四谷の

# 千枚田だより



第 61 号

すずめらのはずむさえすり  
そこかしこ秋の棚田は  
稲穂もおどる 海老 美知子

## 新選定の文化財

文化庁文化財部

### 文化的景観

文化審議会は、先に文部科学大臣より諮問のあつた、蕨野の棚田を含む二件の重要な文化的景観選定等について審議した結果、平成二十年五月十六日にその答申を行った。今回選定となる重要な文化的景観は次のとおりである。

### 蕨野の棚田

佐賀県唐津市相知町  
通潤用水と白糸台地の棚田景観

熊本県上益城郡山都町

月刊文化財 平成二十年八月号より

## 地域づくりインタビュー

国土交通省は、若者の地方体験交流支援事業の一環として大都市圏の大学生二名(女子学生)を新城市に派遣(市企画課担当)。地域調査員として湯谷温泉旅館にホームステイとして十四日間滞在。観光客の増加と温泉振興等の活性化、また、地域資源の調査を行いました。

八月二十六日、調査員二名は小山舜二(ふるさと指導員)と千枚田の高齢耕作者(日本真ん中紀行で有名な丸山俊明さん)の田んぼや石崖の草刈りな

どの奉仕活動を行い、老夫婦に大変喜ばれました。

### 景観整備

九月七日、保存会、連谷お助け隊は千枚田入口付近とふれあい広場の草刈りを行いました。



この、景観整備は十月七日、地域貢献度トップクラスのアストラゼネカ社(製薬会社)社員三千人が全国の棚田等、高齢化した地域の支援活動を一齐に行います。

四谷の千枚田には今年も百六名(うち若い女子社員二十六名)の社員が訪れ、景観整備、高齢者宅の支援活動など、地域住民を交え行われます。保存会は、当日、慣れない作業で怪我でもされたら大変だと事前に

受け入れ準備を呼びかけたところ会員は勿論、お助け隊のメンバーも大勢駆けつけました。これも恒例行事が浸透した喜ばしい結果と思います。ご苦労様でした。

### お知らせとお願い

十月七日(火)、アストラゼネカ社(一〇六名のボランティア活動)が千枚田で行われます。当日は保存会、連谷お助け隊、田吾作、棚田っ娘の皆さんを始め、地域の皆さん、棚田ファンの皆さんも大勢参加していただき、千枚田の景観整備等を通じた都市交流に、秋の一日を楽しみたいと思います。

地域の皆さん、一般参加の方は(舜)までご連絡下さい

### おおまいがつと

九月八日早朝、六名の外国人(コリンジョンストン チームリーダー)が自転車で行きました。彼らに、三河弁で「どうだん、千枚田は・・・」と聞くと、異口同音に「おーまい、がつと」の連発で、あとは£%＃チンプンカンプン

でしたが、きつと、千枚田は素晴らしいといっていると思えました。

彼らはBEE(Bicycle for Everyone's Earth)といい、自然環境問題の啓蒙活動をしているグループで、大気を汚染しない効率的な交通手段として自転車を促進しています。

八月四日、稚内を出発。道中、学校やコミュニティセンターでの教育活動を通して地域に貢献したり、サステイナビリティ(地元で生産された健康な産物を食べ、環境にやさしい製品を購入すること)を学び、みんなにも広め、日本のありのままの美しい自然を見ながら鹿児島までの三千キロの冒険をしているグループです。



### 案山子

連谷小学校児童九名は九月三日、親子で作った案山子九体を学校田に立て、スズメを追ったり、訪れた人達に愛嬌を振りまいている。



### 稲刈り (実施分)

慈友学園の稲刈り

九月七日、名古屋北ロータリークラブが招待した養護施設の子ども達(二才~十四才 十四名)は自らが植えた稲の刈り入れ作業を体験。

昼飯は地元のおっかさんの作る食事に舌鼓。

午後は連谷お助け隊のお兄さん達と水鉄砲、紙飛行機の作成、飛ばしやっこなどを競いあった。

また、市職員有志が休み返上で昔懐かしい「ぼん菓子」を振る舞い、これには子供は勿論、ロータリアンも大喜びであった。



豊橋調理製菓専門学校での稲刈り  
九月十一日、午前中は地元のおっかさんの手ほどきで地域の食材五平餅作りを学んだ。



午後は育農の一環として稲作に取り組んでいる稲の生育調査、刈り取り作業を実施した。

三河の山里ツーリズムの稲刈り  
九月十三日、五月に始まった米作り体験ツアーの最終回。

稲刈りの後、味噌味とハイスガリ味噌の五平餅を作った。八子五平は嫌がると思ったが、みんな珍しいのも手伝ったのか「旨い、うまい」と大喜びであった。



### 稲刈り (予定)

九月十八日、こども農学校の稲刈り  
(JA愛知東主催)

九月二十八日、みんなの奥三河の稲刈り

十月一日、連谷小学校の稲刈り

### 朗報

環境を重視した社会貢献度トップクラスの横浜・ゴム新城工場は、敷地内にドングリを植えCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

その苗木などの育成に湧き水と天日乾燥で収穫、環境に優しい千枚田のワラを幼木の敷きワラとして大量に購入していただき、生産性の低い棚田の百姓にとっては最高の支援をしていただきました。  
本年も、購入(支援)していただくことが決まりました。

本当に有り難う御座います。助かります。

げなげな斬 // 遊びに来る人 //

ほい、よお来るじゃんかん...  
ふんとだのん、毎年増えるじゃんかん... さつきもやあ、外人が来たむんで、あんたら、どこだんちゅって聞いたらフランスだつちゅうだぞん... そうだわいのん、わしもこないだの朝にやあ、自転車で来た若い衆に「おお、まい、がっ」とばかり言われちゃって、まいっちゃったぞん... ほい、千枚田の百姓も、ちったあ 英語を勉強せにやあ あかんづらかのん... まあ、無理だのん

行 平成二十年九月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二  
S-koyama@r6.dion.ne.jp